

# 陸自ミサイル連隊 沖縄本島に初設置

## 「長射程」配備も視野

防衛省は21日、沖縄県うるま市の陸上自衛隊勝連分屯地に、新たな地対艦ミサイル連隊を発足させた。沖縄本島に相手国の艦艇を狙うミサイル部隊が設置されるのは初めてで、敵基地攻撃能力（反撃能力）を担う長射程ミサイルの配備も視野に入る。防衛力の「南西シフト」の一環だが、止まらない拠点化に地元では反発が強まる。

地対艦ミサイル連隊は、敵艦艇を陸上から迎撃するミサイル部隊をとめる上部部隊。今回で六つ目となる。24年度末には大分県に七つ目ができる。活発化する中国艦艇の動きに合わせたものだ。この日は沖縄・与那国島の陸上駐屯地に電子戦部隊も発足した。

防衛省はこの数年、南

西諸島にミサイル部隊を配置。今回発足する連隊は、各地の部隊を指揮する「司令塔」（防衛省関係者）だ。

一方、防衛省は勝連分屯地の北西約15kmのゴルフ場跡地で新たな訓練場の整備計画も進めており、ミサイル部隊の訓練地にもなる見通しだ。だが、騒音や事故を懸念する住民からは白紙撤回を求める声が上がる。

うるま市の隣の沖縄市の沖縄訓練場では、長射程ミサイル部隊が運用する「12式地対艦誘導弾」の射程を延ばし、敵基地攻撃能力を担う能力向上型も南西諸島を中心位置く方向で検討している。（成沢解説）

## 「説明ない」地元反発

勝連分屯地前では21日、地対艦ミサイル部隊に反対する集会が開かれ、地元住民ら約60人が参加した。

政府は、12式地対艦誘

導弾の射程を延ばした能

力向上型を今年度から量

産している。配備先是未

定だが、25年度から部隊

配備予定だ。集会に参加

したうるま市の女性（68）

（小野太郎、棚橋暁月）



は「敵基地攻撃能力を持つミサイルの配備計画ありきでは。相手から狙われる」と思うと不安で仕方がない」と漏らす。

ミサイル関連装備は14日未明に駐屯地に運び込まれた。玉城デニー知事は、翌15日の記者会見で「県、自治体、住民への丁寧な説明が必要であつたが、手続きを踏まえずに配備されることとは遺憾」と述べた。玉城氏は12式の配備は容認しているが、長射程ミサイルには強く反対している。

沖縄本島中部では、勝連分屯地へのミサイル配備と連動して新たな訓練場や捕給拠点の整備計画が持ち上がるなど、自衛隊増強の動きが急速に進みつつある。20日には、うるま市で訓練場整備の断念を求める市民集会があり、中村正人市長ら約1200人が党派を超えて参加した。市役所職員の女性（48）は「何の説明もされないまま、防衛の前線に押し出されていると感じる」と語った。